



— 気仙沼ニッティングの取組について —  
石破地方創生担当大臣との懇談会 ご説明用資料

平成 26 年 10 月 2 日

株式会社気仙沼ニッティング  
代表取締役社長 御手洗瑞子

## 事業の背景と目的



気仙沼ニッティングは、東日本大震災後の東北において、

- 一時的な復興需要が去ったあとも、持続的に地域に収益をもたらす基盤をつくりたい
- 「いいもの」をつくりお客さんによろこばれることで、働くひとの「誇り」になる産業をつくりたい

という思いから立ち上げた会社です。

気仙沼発の、世界で通用するハイエンド・ブランドとなることを目指し、「手編みもの」の会社として2012年6月に創業、2013年6月に株式会社化しました。

気仙沼ニッティングは、東日本大震災後の東北で生まれた持続可能な事業として、地域のモデルケースとなり、産業の再興を牽引していきたいと考えています。

## 事業概要

気仙沼ニットイングは、気仙沼の編み手さんたちが編んだセーターやカーディガンなどをお届けする事業を行っています。お客様と編み手の双方に「うれしさ」を生める事業を目指しています。



# なぜ編み物か

気仙沼で持続していく事業を起ち上げるにあたって、編み物を選んだ理由は、

- **すぐに始められる**：東日本大震災により多くのインフラが被災し、また地盤沈下も起っている気仙沼においては、大きな設備投資の必要な事業をすぐ始めるのは難しい状況でした。編み物であれば、編み棒さえあれば自宅でも仮設住宅でもすぐに始められることでした。
- **採算のあう価格設定ができる**：編み物は、セーターやカーディガンなどウエアを作ることができます。そうすると、価格設定が「手芸」ではなく「ファッション」の領域で行うことができます。人に「欲しい」「着たい」と思われるものが作れば、採算のあう価格設定にできる可能性が高いと考えました。
- **編み物作家さんを知っていた**：手をかけてつくるものを、お客さんが「欲しい」と思える商品にするためには、デザインの力が重要です。編み物作家の三國万里子さんを存じ上げており、ご協力いただいたことで、本事業を具体的に始めることができました。
- **気仙沼という土地に編み物の文化があった**：港町である気仙沼では、漁網を補修したり漁師のセーターを編むなどの習慣があったことから、編み物は身近なものでした。



最初につくったのはオーダーメイドのカーディガン。  
4着の募集に、100件近い申込みがありました



MM01  
15万円1,200円 (税込)

- 一着のカーディガンを編み上げるのにかかる時間は、50時間以上。人件費だけで、十分に高くなります。その価格設定で商品として成立させるには、材料もデザインもサービスも、すべてをハイエンドに振り、「最高のカーディガン」をつくる必要があると考えました。
- オーダーメイドにしたのは、着る人に「手編みのうれしさ」を最大限感じていただけるようにするためです。
- 最初は4人の編み手しかいなかったため、初めての受注はたった4着のカーディガンでした。
- 不確実性が大きく予想もつきにくい事業であったため、「小さく生んで、大きく育てる」をモットーとし、まずは小さなスタートを切り、トライアンドエラーを繰り返しながら身の丈で成長させるようにしています。

## 現在、商品は3種類です



FIRST MODEL

MM01

- オーダーメイドのカーディガン
- 価格：15万1,200円(税込)
- 販売方法：抽選販売
- 色展開：生成り・ネイビー・チャコールグレー



SECOND MODEL

エチュード

- プレタポルテのセーター
- 価格：7万5,600円(税込)
- 販売方法：先着販売
- 色展開：ネイビー・生成り・冬の海・春の海・赤(こどものみ)
- サイズ展開：M, S, 130, 110



THIRD MODEL

Rhythm-A  
リズム

- プレタポルテのセーター
- 価格：10月上旬発表
- 販売方法：10月上旬発表

# 販売は、インターネット販売と展示販売会を主としています

一着ずつどの編み手さんが編んだかわかるようになっていきます。手編みであるため、一着一着少しずつ雰囲気が異なるため、好きなものを選んで買えます。



## etude-0073 よしこさん (M)

サイズなど、全体のバランスがよいです。  
休日の朝にすばっと履からかぶるように、きどらずくついで履られる一着を探している方におすすです。

▼詳細 身幅：52.5 cm 着丈：68cm 袖丈：50cm

購入ページはこちら

※購入ページでは商品が一意で表示されます。  
ご希望のサイズやカラーの在庫を確認して、購入ページへお進みください。  
※本商品のご購入には、「ほぼ日刊イトイ新聞」のストア機能をご利用いただけます。  
「ご注文はこちら」をクリックすると、「ほぼ日ストア」のページが開きます。



りょうこさん  
Ryoko O.

りょうこさんは、震災前は  
気仙沼の食品加工会社に勤めていて、  
「めかぶ」の味付けを担当されていました。  
なんと、めかぶ歴25年。  
毎日何トンものめかぶの味付けをし、  
全国のスーパーに出荷していたのだそうです。  
めかぶ好きの方なら、一度はりょうこさんが味付けした  
めかぶを食べたことがあるかも……。  
震災で工場が流され、  
いまは家事と編み手のお仕事に集中されています。  
編みものは二十歳ごろに始めて、  
昔はたくさんセーターを編んだのだそうです。  
りょうこさんの編むセーターはとも「着やすい」です。  
着る人がよく考えられている。  
編んで着る、編んで着てもらおう、  
という経験をたくさんされた方なのだなあ  
ということが伝わってきます。

ひとりひとりの編み手さんに紹介文  
があります。

展示販売会は、  
気仙沼や東京で開  
催しています。



## 編み手さんにとって、働きやすく、誇りの持てる仕事となるように



- 最初4人だった編み手さんたちは、今では30人以上になりました。
- 編み手さんたちは、週に1日事務所に集まりますが、基本的には自宅で作業し余す。子育てや介護で働きに出られない人も参加できるため、多くの方にご参加いただけています。
- また、買取契約であるため編む枚数も自分のペースで調整できます。編み手の仕事を本業としたくさんセーターを編み稼いでいる方も、空いている時間に少しずつ編んでお小遣いとしている方もいます。
- 川上の産業がメインの気仙沼において、お客さんがよろこんでくれていることを直接感じられることが、大きなやりがいになっています。

## 旅行に行くような楽しさ

- オーダーメイドのカーディガンの採寸のため、編み手さんにお礼を伝えるため、東北出張のついでに、などお客さまが気仙沼にいらしてくださることが多くあります。
- お客さまにとって気仙沼ニッティングでご注文いただくことは、気仙沼にひとり遠い親戚ができるようなことかもしれません。
- 商品を通じて、それまで知らなかった地域に縁ができることで、その地域の暮らしを想像したり、訪ねていく楽しみができる。こうした点は、地方発であるからこそその魅力であると考えます。



# 今後の注力点

## 編み手の育成

- より顧客ニーズに対応した生産を実現するため、編み手が単一商品について熟練するだけでなく、より難易度の高い商品に挑戦できるようにするための技術育成と企業文化づくり
  - 新しいことに挑戦しできるようになることが楽しい、という風土の醸成
  - 練習のサポートの充実 など

## リアルでの販売機会の拡大

- 現状ではインターネットを中心とした販売であるが、試着して決めたいというニーズに応えるため、リアルでの販売機会を拡大する
  - 気仙沼に実店舗をオープン(11月予定)
  - 百貨店やギャラリーでのポップアップの開催

## ブランディングの強化

- 「被災地発ブランド」ではなく、「いいものをつくるブランド」としての認知度を強化する
  - ファッション誌への露出強化
  - 着用PVの製作 など

## 海外への展開

- 海外からも注文を受けられるよう、ウェブサイトを英語化し、SNSでの海外向け情報発信も強化する

# 会社概要

名称

株式会社気仙沼ニットイング

代表者

御手洗 瑞子（代表取締役社長）

住所

宮城県気仙沼市神山5-19

創業と設立

創業：2012年6月、会社設立：2013年6月

業種

手編み製品の企画・生産・販売

資本金

1千万円

社員

2名（他、業務発注先の編み手36名、インターン若干名）

ウェブサイト

<http://www.knitting.co.jp>